

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400172		
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会		
事業所名	老人グループホーム とぎしの家		
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83-1		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールや居室からは外の景色が見られ、四季を感じて頂けるぐらいの長閑な場所である。小学校の登下校姿やテラスからは畑も見えている。畑には幾つかの野菜を栽培しており、収穫した野菜を食事に使って提供させて頂いている。温かく美味しい食事をご利用者の方々と一緒に職員も食していて、共に過ごしている感じを大切にしている。ご利用者の個々の能力を活かして日常生活リハビリを行っている。どんな日常生活リハビリかという居室やホール玄関、廊下の掃除・そろばんを使つての計算・保育園に提供する雑巾作り等々である。コロナ禍であるが、ご家族との交流を大事にしている。奥さんの声が聞きたいと自宅へ電話して頂いたり、ご家族からかかって会話を楽しまれる姿がみられている。また、最近オンライン面会を少しずつ開始している。「のんびり・ゆったり・心地よく」と心掛けて日々のケアをさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「のんびり・ゆったり・心地よく」をより深く理解し、職員が共通認識して支援に活かすことを今年度目標にしている。一人ひとりの思いをくみ取りその人にあった対応や、ゆったりとした関係づくりを行い安心して暮らせるよう支援している。コロナ禍、利用者の「どうして会いに来てくれない」のつぶやきを聞き、寂しさや不安を受け止め、オンラインや窓越し面会を実施して笑顔になってもらったり、息子の姿を動画で撮らせてもらい見てもらうなど、家族との絆を大切にし工夫して支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とぎしの家独自の理念「のんびり・ゆったり・心地よく」をミーティングの際に唱和して、意識を高めるように図っている。	理念をより深め全職員が共通の思いを持ち支援していくことを目標に挙げている。ミーティングやカンファレンスで振り返りをし実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為に交流は出来ていない。	コロナ禍で今までのような小学生との交流など出来ないが、事業所の便りを読んで古新聞やタオルを届けてくれる人もあり、利用者がタオルで雑巾を縫い保育園に提供するなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為に交流は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、グループホームで開催していない。書面報告で対応させて頂いている。	運営推進会議は開催していないが書面で事業所の現状を報告している。オンライン面会で利用者や家族の絆を大切にしていることなど委員から評価して貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面を広域連合介護保険課や地域包括支援センターの委員の方に郵送させて頂いている。	日頃から担当者に事業所の取り組みや現状を伝え協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関や裏口の鍵は開けており、自由に入出りが出来るようになっている。	職員は身体拘束をしないケアを理解している。言葉づかいや対応で気づいたことはケアカンファレンスで話し合いをし、職員間で共有して適切なケアとなるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修に参加し学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1月中に研修会があり、管理者が参加する予定となっている。その後内部研修をする必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方々の表情をみながら説明をさせて頂いている。話し易い雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こちらの事業所へ支払いに来られる際に1ヶ月に一度ご家族に対して、意見・要望を聞く場を設けている。その意見や要望を支援に反映している。	便りや電話で利用者の様子を知らせ、支払い時には訪問して貰い意見を聞いている。「得意なことを勧めて欲しい」などの要望を受け利用者のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスの際に、職員からの意見や提案を発表する場を設けている。それを反映するように努めている。	日頃から、管理者は意見や提案を聞く機会を設けている。福祉用具の購入や、誕生会などの行事の企画運営など職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握した上で働きやすい職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握しながら積極的に研修を受けてもらえるように声掛けしたり、向上していくように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為に交流する機会を設けていない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より情報を頂きながら、ご本人が馴染みのある話を提供したりしてコミュニケーションを図って信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーの方より、ご本人とご家族の関係性等々、情報を聞き取りしてその上で困っていることや不安な事など聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族に対して生活に対しての意向を聞かせて頂いて、それも踏まえて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を共にしたり、作業を共にしたりと一緒に暮らしている者同士を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接の交流は出来ないが、電話で声を聞いて頂いたり、写真等を見て頂いたりして絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外部との交流は取れていない状態である。	日々の様子を写真や動画で家族に伝えている。オンラインや窓越し面会を工夫して行い関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの際に互いの顔が見えたり、触れ合ったりする事で互いの関係性が良くなるように努めている。自然と支え合われる姿がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態を聞かせてもらったり、ご家族の健康状態を聞いたりしてコミュニケーションに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の発語や行動から思いや意向を把握するように努めている。	日頃の関わりから思いをくみ取っている。「家族の声が聞きたい」との思いを聞き家族に電話をしたり、息子の姿を動画で撮らせて貰い安心に繋げるなど、思いを受け止め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を担当ケアマネジャーから情報提供してもらったり、ご家族にお聞きしたり、ご利用者との会話の中より回想法などで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個人ファイルに経過記録して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでご利用者の状態把握し、ご家族からのご意見もふまえて意見交換し作成に反映している。	毎月、家族に様子を知らせ、意見や要望を確認し現状に即した介護計画を作成している。本人の得意なことや出来ることを検討し支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の表情や行動の様子など細かく記録しケアに繋げている。申し送り等で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況等に応じて受診対応している。また、タブレットでのメッセージ交換等、非対面であるが、様子や状況を分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度定期的に地域の散髪店の方に来て頂いて、カットをお願いしている。ご利用者の方々は若返られた姿を見て喜んで下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、またはご家族が希望されたかかりつけ医に往診や受診をされている。その際は状態報告を行っている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し、訪問診療や受診の支援をしている。体調変化時は家族に連絡し情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当者は当日勤務の看護師に状態報告を行ったり、医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	雲南市独自のシートがあり、医療連携シートに記入し、入院された際にはすぐに情報を持って行き、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された時に、ご本人の気持ちを聞かせて頂いている。終末期になられると、ご家族、主治医、とぎしの家での三者会議を設けて、どの様に支援をするか話し合いを行っている。	入居時に事業所として出来ることを説明し方針を伝えている。終末期には関係機関と情報共有し、チームで看取りの支援をしている。看取り後は支援の振り返りをし、学びを次に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害等の訓練は行っているが、急変は事故発生時の訓練は行っていない。勉強が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2年前より意識的な取り組みで避難する際の役割をミーティングの際に唱和している。	朝のミーティング時に「万一の時の意識づけ」を行い職員の役割を唱和し確認合っている。避難時に持ち出しする衣類・下着をまとめ準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が不快に思われたり、傷つかないように人格を尊重した言葉掛けや対応を行っている。	利用者の人格を尊重した言葉づかいや対応を心掛け傾聴に努めている。自己評価で振り返る機会もあり職員間で確認し合い利用者の気持ちに沿った支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人に自己決定できるように働きかけているが、職員の方が思いが強い時もある。ご本人が出来ない事とかは職員本位になっている可能性がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に支援しているが、現状は職員の決まりや都合を優先することが時折ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をなでたり、髭剃りをして頂いたり、またお化粧をされる方はされたりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭きや下膳など、ご利用者の意向を確認しながら行って頂いている。食事はご利用者と一緒に行っている。	畑で野菜を作り調理場の音やにおいを感じたり、利用者の出来ることを活かせるようにしている。三食共に手作りで食べやすく家庭的な味付けを工夫し、職員も一緒に会話を楽しみながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況に応じた刻みトロミ等を考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼、夕食後に一人一人の口腔状態に合わせて、ブラシ、スポンジ、口腔ウェットティッシュで清潔に努めている。異常があればDrに報告し往診してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、習慣を活かしている。自立方向へ向けた支援かという点に難しい点の様に思う。	排泄パターンやしぐさなどのサインを把握し、タイミングを見ながら声掛けしている。夜間は居室の足元やトイレに照明を点け安全にトイレでの排泄が出来るよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くよう飲み物を何種類か用意させてもらっている。また、体操や運動を行ったり、下剤を服用されているご利用者の方はスムーズな排便になるように下剤で調整させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状は施設の都合で設定しているが、できる限り希望等を伺いながら入浴して頂いている。	利用者の状況に合わせて柔軟に対応し、入浴時には羞恥心に配慮してゆっくり入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援は行っているが気持ちよく寝られてない時がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変更になったりするとお薬情報で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花が好きなご利用者の居室前のテラスに鉢植えを置き、居室窓から花を見て頂くことで喜んで下さっているケースもあるが、全ご利用者に出来てないこともあるので課題である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出出来ていない。	以前のような外出は出来ないが、利用者から住んでいた所の畑が見たいと言われドライブしたり、他事業所と連絡を取りながら花見に出かけるなど支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の方で2名程、お金を所持されているが、コロナ禍の為に特に買い物に出掛けて頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望もあり、電話で状況報告をされている機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはソファがあり、ゆったり過ごされる時に使用して頂いている。時折、花を飾ったりして季節を感じて頂いている。	適切な温度や光になるよう配慮し、床暖房で心地よく過ごせる環境作りをしている。ホールにはソファを設置し自由に寛げるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでご利用者同士がゆったりとされたり、テラスで日光浴されたりと居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やとぎしでの行事の写真が飾られていたり、よく着られる上着がかけてあったり、使い慣れたタンスが置いてあったりと安心して頂ける雰囲気を作っている。	本人、家族と相談して家具や写真、身の回りのものを置き、希望で畳を敷くなど、その人に合わせた居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は、ほぼバリアフリーである。手すりを増やす等の対応を行っている。		